

# 平成26年度 追跡評価書

## 研究機関

： 独立行政法人情報通信研究機構、JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社(現 株式会社JVCケンウッド)、シャープ株式会社、株式会社東芝、東芝モバイルディスプレイ株式会社(現 株式会社ジャパンディスプレイ)

## 研究開発課題

： 眼鏡の要らない3次元映像技術の研究開発  
(次世代・究極3次元映像技術)

## 研究開発期間

： 平成 21 年度

## 代表研究責任者

： 榎並 和雅

## ■ 総合評価

### (総論)

社会的な情勢の変化の影響を受けながらも、活用や発展への取り組みが現在も認められ、評価できる。

### (コメント)

- これまでの研究開発で十分な成果が得られている。今後の継続が重要と考える。
- 眼鏡あり3D テレビの衰退のあおりを受けているが、医療応用等を想定して研究開発を地道に続けており、大きく評価できる。

## (1) 成果から生み出された経済的・社会的な効果

### (総論)

研究開発成果を用いた製品化がなされており、現在も特定分野を対象とした新製品につながっていることは評価できる。

### (コメント)

- 眼鏡の必要な3DTVが主流だったのに対し、裸眼というアプローチを提言できたことは評価できる。
- 研究の性格上、すぐには製品化に結びつかないものの、重要な研究も有ると考える。
- 大型3Dディスプレイは、スペック的にも優れており、また長期間一般の方にも見ていただいていることは有意義であると考えます。
- 民生用の3Dブームは衰退したが、医療用などに利用されつつある。
- 研究期間終了後、目標を上回る4機種を市販したが販売終了。3D衰退の関係で国際標準化の提案には至っていない。

## (2) 成果から生み出された科学的・技術的な効果

### (総論)

多くの学会等での発表、表彰の実績があり、誘引効果が認められる。

### (コメント)

- ホログラフィに関しては、当時も世界トップであったが、継続して高い成果を上げている。
- 3D画像表示にあたってのベゼル幅に関する知見等が得られている。
- 論文発表等も継続的に続いており、賞も受賞している。

### (3) 波及効果

#### (総論)

本研究開発を推進する上での周辺技術は、多様な形で波及効果が存在すると考えられる。

#### (コメント)

- 医学用に限らず、広い分野での応用を考えるべきである。
- 電子ホログラフィに関して国際的な関心を引き起こした。

### (4) その他研究開発終了後も実施すべき事項等

#### (総論)

200インチ大画面3D ディスプレイを一般の人が多く集まる場所に常設して、認知度向上、評価実験等に用いていることは、評価できる。

#### (コメント)

- 学会等での発表に加え、大画面3D ディスプレイのパブリックビューイングとそれに関わる多様な取り組みがなされており、評価できる。

## (5) 政策へのフィードバック

### (総論)

経済的、社会的には周期性があるとされる分野であるが、国家プロジェクトとしては妥当であり、継続性が重要なテーマであると考えます。

### (コメント)

- 3D に関しては、特にホログラフィが韓国や中国でも国家予算によるプロジェクトが立ち上がっており、日本でも継続する必要があると考えます。
- 2020年東京オリンピックに向けて、人体に与える影響等を適切に行ったうえで、再度研究・製品開発を推進してほしい。